

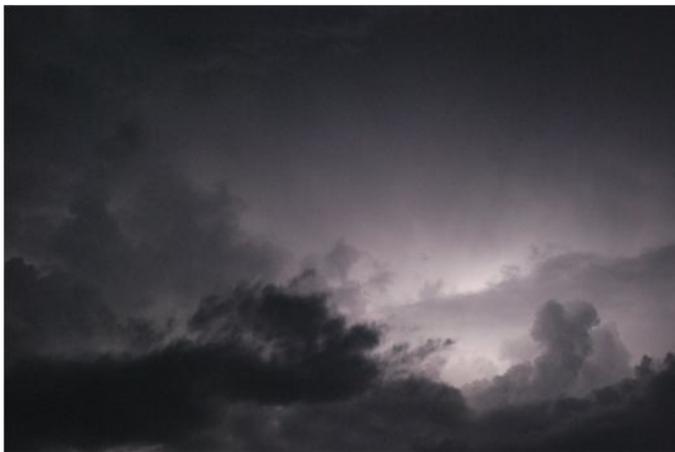
## 「雷を観る・撮る(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

雷は、数ある大気現象の中でも、最も激しく、危険なものである。日本では竜巻で死んだり、大けがをする人はほとんどいないが、雷で死ぬ人は毎年必ずいる。「雷」とは、**電光(稲妻)**、**幕電(雲間放電)**、**雷鳴**などの総称である。他にも稀な現象として、**球電**(球状のエネルギーの塊が生じる現象)や**スプライト**(積乱雲から、はるか上空の大気光への、大規模な放電現象)なども、雷に伴って起きる現象だ。

また雷は、オーロラと並んで、地球大気で起きる最もダイナミックで美しい現象とも言える。その中でも可視放電(稲妻)は、芸術的とも言える美しさを持っている。しかし、雷放電は一瞬で終わる現象で、それを目視したり、撮影することは容易ではない。

雷が起こす現象で、一番よく目にするのは、雲間放電の一種「幕電(まくでん)」であろう。雲の中だけに電位差が生じ放電する現象で、目視では、積乱雲全体が光るように見える。



上の写真は、8月上旬に嬭恋村(群馬県)で撮影した、典型的な幕電である。幕電は、積乱雲を真横から見た時によく観察できる。この写真では、夜になってやや衰退した積乱雲の中で起きた放電が、雲全体を照らしている状態をとらえている。手前に写っている黒い雲は、高速で移動する片積雲(千切れ雲)である。幕電も電光が発生源なので、「フワっと」した光り方はせず、雲全体が一瞬「カチっと」光るのが特徴だ。

電光(稲妻)の中でも、落雷の一瞬が、最も劇的である。しかし、これも撮影は容易ではなく、危険も伴

う。稀に雲間放電でも電光が写ることがある。これは、特に、衰退期に入った積乱雲によく見られ、肉眼で見ても、写真に撮っても、実に幻想的である。



上の2枚は、8月上旬に軽井沢病院の病室から撮影した「雲間放電」である。この時すでに積乱雲の活動は衰退し、右下→左上に放電する稲妻が見られた。本来ならば「幕電」になるはずだったのだろうが、雲が衰退期に入っていて、手前の雲塊がすでになくなっていて、直接放電が見えたのだろう。(つづく)